

私は普段、小説などは読むことも無く、今回の課題の中で唯一の小説だったのでも楽しみでした。今まで課題で学ばせてもらったところが人生になるとこういう表現になるのでは無いか...と思えた作品でもありました。そんな長いストーリーでは無いですが、色々なことが凝縮されていて、何度も読み返しました。一回目、二回目と読み返す度に、自分の解釈も少しずつ変わっていききました。

ジョナサンはただ飛ぶことが何より好きでそれを極めていけばいくほど色々得るものがある。うものがあり、最終的にみんなは味わうことができない大きな歓びと充実感を得ることができたのだと思います。そして、次は自分から伝える師となり、育て継承していく。当初は第三章、ここまでが発表されていてきれいな物語として終わっていたのに、何故第四章を発表しようと思っただのかも考えさせられました。どこかボタンが掛け違えられ、解釈する

受け取る側次第で、どんなに良い事も本来の意味、価値を失ってしまいう恐ろしさを感じました。だからこそ、伝える側も慎重にならなければならぬ。慎まないと、あらゆるものが溢れている世の中だからこそ、本物を見抜く力、本物を伝えていくことを作者は伝えたかったのかなあと思いましたが、では、本物を見抜く力、本物を伝えていく力は誰でも出来るのか。そこも一つのポイントなのかもしれないと思いましたが、ジヨナサン

ンと直弟子までは、それが出来ていたのに、直弟子から更に弟子に伝えていくなかで飛ぶことを繰り返して訓練し、追求していくことをしななくないでしまつた世代から何かがおかしくなつたのです。結局、日々の努力なくして成功はない。日々の努力から発見があり思考が養われ、それを語るにふさわしい人格が出来てくる。ここを深く理解しなければならぬ。いのちもしれないと私なりに解釈しました。また、ジヨナサンのテレパシーのようない会

話 法 や、瞬 間 移 動 の よ う な あ り え な い 事 も、
人 間 界 に 置 き 換 え た と き、極 め て き た 人 た ち
に は 何 か し ら 体 験 と し て 持 っ て い ら っ し ゃ る
の で、そ の 表 現 も、自 然 に 受 け 取 る こ と が 出
来 ま し た。

も っ と も っ と 学 ん で い こ う！ 頑 張 ろ う！ と

思 え た 一 冊 で し た。

あ り が と う ご さ い ま し た。